

平成31年度

(2019年)

事業計画書

2019年4月 1日から

2020年3月 31日まで

公益財団法人 ノーマライゼーション住宅財団

平成 31 年度 事業計画

はじめに

【環境認識】

2018 年の「今年の漢字」は“災”「サイ」または「わざわーい」でした。6 月以降、大阪北部地震、西日本豪雨、9 月の台風襲来、また、忘れることの出来ない「北海道胆振東部地震」の被害など、いまだに完全復旧してないところもあり多くの自然災害が日本全国で次々と起こりました。地域でのボランティアの活躍、民間ならではの募金や支援活動もきめ細かに行われました。北海道経済の現状は、「北海道胆振東部地震」の影響が残るものの、緩やかに回復基調が続いている。個人消費は、一部に弱い動きがみられるものの、雇用・所得環境の改善を背景に緩やかに持ち直している。設備投資は堅調に推移しているが、公共投資は弱含みとなっており、住宅投資は減少している。この間、景気感の現状判断には自然災害などによる下押し圧力が徐々に緩和され、景気の回復テンポは緩やかに高まっていくと予想される。年度後半にかけて消費税増税の駆込み需要が幾分見込まれる。

一方国外に目をやると、世界初の米朝会談、米中経済問題など世界の動きにも目が離せません。我が国の防衛予算が市場最高額というのも気になります。

【基本方針】

昨年度は、当財団の設立 30 年の節目の年となり、30 周年記念として 11 月に海外視察研修を行いました。

当財団の平成 31 年度の事業計画としては、基本財産運用収入も昨年同様継続しつつ、本年度も更なる管理面・制度面の充実向上を図り、予算を念頭におきながら財産運営を行い、支援通し予算管理の徹底と公益に資する法人として、現状を踏まえ継続し、高齢者や障がい者が安全で安心して快適に暮らせる住生活の整備向上と支援を通して、全ての人生きがいを持って生活できる社会づくりと社会福祉の増進寄与する事業をさらに継続し取り組んで参ります。又、ネットの時代に対応し当財団のウェブサイトにも常に更新をし、見やすく・わかりやすく新しい情報を更新し、多くの視野を広げて対応していきます。

【事業計画】

I. 福祉住宅の建築に関する助成及び情報提供事業（公益目的事業1）

(1) 助成金による福祉住宅建築支援

当財団設立以来、第31回目を迎える建築助成事業として今年も多方面から募集し継続していきます。少子高齢化にともない高齢化社会が進んできている中、高齢者や障がい者がもっと安全・安心して快適に暮らせる住宅、また、将来身体機能等が低下しても安心して生活できる住宅の普及を目指します。福祉住宅として新築・リフォームされた建築主、およびグループホームや高齢者向けアパートなど福祉小規模集合住宅の建築主から広く数多く応募を受付し、有識者による審査のうえ今後の参考に資する施工物件に対し助成金を給付します。

又、助成を受けられた施工物件に対して、優れたご提案やアイデアなど、設計・施工された施工業者様に「感謝状・盾」を贈呈しています。

(2) 福祉住宅建築助成事例集「ふれあい」発行

助成建築主へ直接取材を行い、今後の福祉、介護面等の参考となる事例や建築に関するアイデアなどを、当財団情報誌により広く提供していきます。

また、専門家のアドバイスや、工夫した点、実際に暮らしてみても感想なども数多く綴られております。冊子「ふれあい」及び「ふれあい総集編Ⅱ」は、地方自治体及び社会福祉協議会など関係諸機関及び福祉団体関係への講演資料として配布をし、広く地域の皆様に役立てていただきます。

II. ノーマライゼーション理念の普及啓発事業（公益目的事業2）

(1) 広報誌「^{ウイズ} ^{ライフ} WITH LIFE（共に生きる）」発行

福祉に関する情報を掲載し、ノーマライゼーションの理念と実践を紹介する当財団の広報誌です。（年2回発行）

理事長を最初に「我らサポーター」として当財団各役員の取材をはじめとして、ノーマライゼーションを実践されている方々の対談やインタビュー、福祉事情の関連紹介や福祉住宅の設備、福祉機器、快適で便利なシステムなど、役立つ情報をわかりやすく紹介していきます。「ふれあい」同様、地方自治体や介護支援の事業所及び社会福祉協議会など各関係諸機関に配布し、社会福祉の増進に役立てていただきます。

(2) 小・中学生による「安全・快適アイデア」コンテスト

当財団は、「すべての人が共に暮らし共に生きることがノーマル（正常）である」というノーマライゼーション理念の普及・啓発を図るため、子どもたちにアイデアを考えていただき“広いところ”を育てます。

おとしよりや障がいを持つ人たちが、明るく楽しく生活できるアイデアや、安全に外出を楽しめる環境づくり等について多くの提案をしてもらいます。

本年度で第24回目を迎える「小・中学生による安全・快適アイデア」コンテストは、今まで同様多くの作品を募集し継続していきます。受賞を受けられた小中学生には、盾・表彰状・図書券・参加賞などを毎年工夫し、数多く小・中学生の皆さまに楽しく参加して頂けるよう運営します。

また、例年入賞発表している展示場所（さっぽろ地下街オーロラ会場）を多くの市民や小中学生の皆さま・ご家族に見て頂く為にも目の着くような場所を検討実行しております。

(3) 福祉事情に関する情報収集及び提供

昨年度は当財団設立30周年記念として海外視察研修を計画し訪問先は、ドイツの2都市（ケルン・アーヘン）を5泊7日の日程で視察研修を行い、参加者全員無事に帰国。全員にレポートを書いて頂き、今回報告書を作成いたしました。

参加者には理事及び評議員、福祉関係の大学の教授、賛助会員からは建築家など計画にあたりいろいろな情報や数多くのアドバイスを頂きながら実行いたしました。また、今までに「ふれあい」の中で取材させて頂いた福祉住宅・福祉施設など、障がい者に対して数年経過して現在どのような生活を送っているかなど福祉事情の形跡をたどる為に再度取材をこころみ、あらゆる福祉全般に関する情報収集を目的とした取材を行い提供致します。

他にあらゆる福祉全般に関する情報収集を目的として、有識者や福祉関係者等に呼び掛け、福祉住宅状況や福祉事情など把握し研修視察をし、視察研修報告書及び「WITH LIFE」等でレポートにて発表していきます。

Ⅲ. その他事業

公益法人としての責務を自覚し、この法人の目的を達成するため積極的に事業に取り組んでいきます。